

広報



6

2013
No. 98

挑戦！



みんなで創る みんなのまちを 目指して



もりした ゆたか
森下 裕

1948年7月1日生まれ
若狭農林高校卒、大鳥羽
趣味：ウォーキング、家庭菜園
座右の銘：和顔愛語

■経歴

昭和43年に旧上中町職員として奉職。福井県出向、琵琶湖・若狭湾リゾートライン鉄道建設および小浜線電化促進協議会への勤務を経て、産業課長、企画課長を歴任。若狭町に合併後は、助役、副町長を務め、平成21年から第2代若狭町長を務める。

森下町政2期目のスタート

4月の若狭町長選挙は、無投票により森下町長が再選を果たしました。

5月1日に初登庁し、森下町政の2期目がスタートしました。

若狭町が誕生して8年が経過しましたが、厳しい財政状況や少子高齢化、不安の残る社会情勢など、若狭町を取り巻く環境は、依然として順風満帆とは言えません。

このような中、森下町長は、2期目のまちづくりに着手していきますが、どのようなまちづくりを展開していくのでしょうか。

森下町長に目標や抱負を伺いました。



◀職員らが迎える中
登庁する森下町長

森下裕が語る2期目のまちづくりとは

2期目のまちづくりにあたり、わたしは次の6つを柱にした取り組みを進めていきたいと考えています。

①安全安心な町づくりに向けて

今年3月に町の防災計画を策定しました。計画は、豪雨、豪雪、強風、地震などの一般災害と、2年前の東日本大震災以降、国や県が防災計画をまとめている原子力災害にもいち早く取り組ませてもらいました。今後は、国や県の指導も受けながら、防災計画を見直していきたいと考えています。

②次世代の定住促進に向けて

上瀬に町営住宅団地の造成、そして天徳寺にはエコ住宅団地を計画し、多くの次世代の方に定住していただけるよう取り組んでいきます。

次に、若狭町にも多く見られる空き家対策として、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている熊川宿にある約40戸の空き家をモデルとして、ひとつの方向性を導き出したいと考えています。

③集落自治の推進に向けて

現在、各小学校区単位で地域づくり協議会が設立されています。この協議会をひとつの核として、地域の歴史や文化など魅力を発信していきます。

これが協働のまちづくりの原点であると考えています。そのためにも、まず職員がそれぞれの地域に根を張って、それぞれの地域で活躍して欲しいと思います。

次に、集落計画、地区計画、町の計画を一体的に連携してまちづくりを進めていきます。特に財政が厳しい中ですので、選択と集中を柱に皆さんの要望に応えていきたいと考えています。

④特産福井梅の振興に向けて

町の特産である福井梅の振興にあたり、産地育成・人材育成に取り組んでいきます。若狭町がここまでの大きな産地になることが出来たのも、多くの生産者の汗と涙があってこそです。そのことを肝に銘じて、さらなる産地育成に向けて取り組んでいきます。

産地を育成するには、まず所得の確保が必要です。そのための知恵をみんなで出し合い良い方向を見い出したいと考えています。また、人材育成については、かみなか農楽舎と十分な連携をして、取り組んでいきたいと考えています。



⑤観光立町、環境のまちづくりに向けて

平成26年に、舞鶴若狭自動車道が供用開始する予定です。この受け皿として、三方五湖周辺の整備や、平成30年に開催される福井国体に向けた多目的広場の整備に着手します。ソフト面においては、交流人口を増やす取り組みとして、花と光をテーマに町の魅力を発信した誘客に努めていきます。わたしは、若狭町の大きな魅力は「おもてなしの心」と「優しい心」だと常に感じています。

この心を魅力として発信し、お客様に「来てよかった」、「訪れてよかった」と感じてもらえるまちになるよう努力していきます。

そして、ラムサール条約湿地に登録されている三方五湖をはじめ、若狭町には渡り鳥やコウノトリが飛来しています。住民の皆さんも冬水田んぼに取り組むなど環境に優しいまちづくりに努力していただいています。わたしたちもこれらを目標にして努力してまいります。

⑥嶺南地域の一体化に向けて

昨年度に嶺南6市町で、それぞれの行政業務が共有できるか、さまざまな角度で検討する嶺南地域広域連合研究会（仮称）が立ち上がり、若狭町がこの事務局をさせていただいています。

財政事情が厳しい中、いかに行政コストを削減するかが、各市町の課題となっています。これらの課題に対して各市町と検討を進めていきます。

他にも、福祉や教育、医療についても課題や取り組みがありますが、それぞれ立場の中で一生懸命に考えてまいりますので、明るく、元気で、笑顔がいっぱいになるまちを、皆さんと一緒に創っていきましょう。

副町長に中村氏、教育長に玉井氏が就任

5月8日付けで、副町長に中村良隆氏が就任しました。また、5月14日に若狭町教育委員会が開かれ、教育長に玉井喜廣氏が選任されました。任期は、ともに就任の日から4年間です。



なかむら よしたか
副町長 中村 良隆
(57歳、横渡)



たまい よしひろ
教育長 玉井 喜廣
(61歳、三宅)

若狭町議会

若狭町長選挙と同じく実施された若狭町議会議員選挙では、定数 16 人に対し、現職 10 人と新人 6 人が立候補し、無投票で次の 16 人の方（上段左から議席順）が当選されました。

町議員は、住民の代表として、重要案件の決定や町政のチェック、そして皆さんの声を届ける重要な役割を担っています。

町議員の任期は、2017 年 4 月 30 日までの 4 年間です。



わたなべ ひであき
渡辺 英朗 初

32 歳、成願寺、無所属
若い世代や住民の声を反映し、議論の中身を分かり易く伝えます。

知行合一

サッカー、神社・仏閣巡り



しまづ ひでき
島津 秀樹 初

53 歳、小原、無所属
人とのつながりを大切にします

何でも自分でやってみる

コーラス



つじおか まさかず
辻岡 正和 初

57 歳、上吉田、無所属
言える、聞ける、わかる政治の実現。思いを伝えます、結果を報告します

自ら望み、自らつくり、行動する

音楽（ギター）、テニス、アンティーク鑑賞



し めい
氏 名 (当選回数)

年齢、集落、所属党派

任期中の想いや公約

座右の銘、好きな言葉

趣味



たけだ としたか
武田 敏孝 3

53 歳、井ノ口、無所属
子どもにつけを回さない。健全財政と教育を大切にする町を目指します

人は城、人は石垣、人は堀

野球



こほり ともひろ
小堀 友廣 3

64 歳、鳥浜、無所属
人づくり、町づくり、心づくりに努めます

沈着勇断

園芸、武芸



しみず としかず
清水 利一 3

65 歳、上野木、無所属
将来につながるまちづくりを目指します

努力

釣り



さかもと ゆたか
坂本 豊 初

60歳、北庄、無所属

若者が住みやすい町づくり、地域に活力が持てる町づくりに努めます

天は人の上に人をつくらず、
人の下に人をつくらず

スポーツ、旅行、ドライブ



いまい とみお
今井 富雄 初

64歳、佐古、無所属

希望が託せる若狭町を求め続けていきます

為せば成る、為さねばならぬ何事も、
成らぬは人の為さぬなりけり

スキー



はらだ ゆきお
原田 進男 初

68歳、三宅、無所属

広域行政、びわこ若狭快速鉄道の推進、教育・歴史・文化・地元産業の育成

有言実行

海釣り



きたはら たけみち
北原 武道 2

68歳、下タ中、日本共産党

一人ひとりが大切にされる、誰もが住みやすい町を目指します

—

—



ふくたに ひろし
福谷 洋 2

72歳、三田、無所属

共に生き、共によろこび、笑顔あふれるまちづくりを目指します

継続は力なり

読書、短文芸(冠句・俳句)など



ふじもと いさお
藤本 勲 3

65歳、南前川、無所属

人的交流を深め、活力とゆとりのあるまちづくりを目指します

ありがとう

園芸



おおつか すえよし
大塚 季由 3

66歳、能登野、無所属

住民の皆様の諸問題、御意見に対して行政運営に努める

思いやり

野菜づくり



こほり のぶあき
小堀 信昭 3

68歳、高岸、公明党

30年、50年先を見据え、教育・観光・農業に発展的発想を取り入れる議会に

政治は住民のために(生涯青春、清貧)

スキー、山歩き



こばやし かずひろ
小林 和弘 3

70歳、日笠、無所属

住民にもっと関心及び注目して頂ける議会を目指したい

初心忘るべからず

読書



まつもと たかお
松本 孝雄 3

70歳、小川、無所属

子どもやお年寄り、障害のある人もお互いに助け合う社会を目指します

有言実行

—

まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)



▲提言書を森下町長に手渡す熊谷委員長



勇壮な舞いで春を迎えます (4/8)

気山の宇波西神社で、春の到来を告げる神事芸能が行われました。

同神社の王の舞をはじめとする神事芸能は、地域の豊漁豊作を祈願するもので、国の選択無形民俗文化財に指定されています。

神事芸能は、若狭町と美浜町の氏子集落が持ち回りで担当しており、今年の王の舞には、海山の田辺達也さんが舞い手を務めました。

田辺さんは、約3mの鉾を手に、笛や太鼓の音に合わせて力強い勇壮な舞いを奉納し、舞いが終わると、大勢の見物客から大きな拍手が送られました。



地域活動は家庭から (4/8)

若狭町男女共同参画プラン策定委員会の熊谷和子委員長が、若狭町男女共同参画プランを森下町長に提言しました。

同プランは、昨年2月から9回の策定委員会を重ねてまとめられたものです。

今回の提言では、「共に尊重し、地域からはじめる男女共同参画」を目標に、「コミュニケーションと相互理解」と「女性が参画しやすい環境づくり」の2つが重点的な取り組みとして提言されました。

森下町長は、「女性の地域活動には、家庭の協力が必要。今後は、地域づくり協議会などを通じて提言に応えていきたい」と話しました。



▲勇壮な王の舞と、それを警護する若衆ら



彼らの精神を忘れない (4/15)

佐久間艇長遺徳顕彰式典が、佐久間キャンプ場の顕彰碑前で行われました。

式典には、遺族や海上自衛隊などの関係者約300人が参列し、佐久間艇長の遺徳を偲びました。

森下町長は、「物質的には豊かな時代になったが、報恩感謝の気持ちが必要。艇長の遺徳を後世永きにわたって伝えていかなければならない」と式辞を述べました。

また、今回の式典には、駐日イギリス大使館付け防衛武官のアンディー・エドニー海軍大佐も参列し、乗組員たちの任務に対する勇気と献身に敬意を表したスピーチをしました。



▲顕彰碑に献花をする地元の小学生



わたしたちが作るまつり (4/18)



▲各部門で議論を交わすスタッフら

第4回若狭町まつり「若祭」の開催に向けて、第1回運営部会が働く婦人の家で行われました。

運営部会には、町内のボランティアスタッフ約30人が出席して、イベント内容などについて話し合いました。

運営部会では、スタッフが各部門ごとに分かれて「町の特色を出した体験」や「食や特産品のPR」などについて、活発な議論を交わしました。

運営部会は、これからも随時開催され、9月15日の本番に向けて準備を進めていきます。

町では、まつりに協力してくれるボランティアスタッフを募集しています。

あなたも町のまつりに携わってみませんか。



健康は食生活から (4/20)

若狭町食生活改善推進員の委嘱式が上中庁舎で行われました。

食生活改善推進員は、地域の子どもから高齢者までのすべての人の健康づくりのために、子どもに適したおやつをはじめ、バランス食や減塩食の普及啓発など食生活を通じたボランティア活動をしています。

今回、同推進員の養成研修を修了した10人は、田辺副町長から委嘱状を手渡されると、地域の健康づくりに貢献していく気持ちを胸に刻んでいました。



▲田辺副町長から委嘱状が手渡される推進員ら



海の恵みをありがとう (4/23)

恒例のふぐ供養が、塩坂越の瑞泉院で行われました。

ふぐ供養は、ふぐをはじめとする若狭湾の恵みに感謝する取り組みで、それらの魚介藻類の命を供養することで、これからも若狭町が観光地として発展することを願っています。

供養には、観光業に携わる関係者など約20人が出席し、昨シーズンにお世話になった海の恵みに感謝しました。

その後、塩坂越海岸からふぐとタイガ放流され、今シーズンの観光客の増加と、地域のさらなる活性を願いました。



▲ふぐやタイを放流する関係者



▲熊川宿に並ぶクラシックカーを眺める
大勢の人たち



▲ドライバーに質問する児童たち



▲田辺副町長からチェックスタンプ
を受ける近藤真彦さんのペア



▲着物でクラシックカーを迎える
地元の女性たち



▲熊川宿の町並みを駆け抜ける
クラシックカー



和と洋の素敵な共演 (4/23)

近畿地域を中心としたクラシックカーの祭典「La Festa primavera2013 (ラ・フェスタ・プリマベラ)」が行われ、約 50 台のクラシックカーが熊川宿を訪れました。

このイベントは、4 日間かけて近畿地域を中心とした名所をクラシックカーで巡るもので、20 日に愛知県の熱田神宮をスタートしました。

熊川宿を訪れた参加者の中には、タレントの堺正章さんをはじめ、近藤真彦さんや鈴木亜久里さん、篠塚建次郎さんの 4 人も訪れ、観客から大きな声援が送られていました。

また、ドライバーたちに、車の魅力などについて質問をしていた熊川小学校 5 年生の佐藤蘭菜さんは、「今の車とは違う。格好がよく、乗ってみたい」と目を輝かせて話してくれました。

熊川宿でチェックスタンプを受けた参加者たちは、ゴールの大坂城を目指してクラシックカーを走らせていきました。



交通ルールを正しく守ろう (4/25)

自転車の正しい乗り方を学ぶ交通安全教室が、気山小学校で行われました。

この教室は、児童たちに正しい交通ルールを学んでもらおうと、毎年、警察署と交通指導員協議会が町内すべての小中学校で行っているものです。

教室では、1 年生～3 年生は気山公民館で、4 年生～6 年生は路上でそれぞれ指導を受け、児童たちは、警察官や交通指導員が見守る中、真剣な表情で正しい乗り方や交通ルールを学びました。

2 年生の和多田壮希くんは、「今日学んだことを守って、これからも車に気をつけて自転車を運転したい」と、安全運転を心がけていました。



▲指導員が見守る中、横断歩道を渡る練習をする
児童たち



遠くとも近い仲を目指して (4/26)



▲協定書を手に握手をする3市町の首長
(左から山本益田市長、濱田高槻市長、森下町長)

若狭町は、姉妹都市の大阪府高槻市と、同市の姉妹都市となる島根県益田市の両市と、災害時相互応援協定を結びました。

協定では、3市町のいずれかで大規模災害が起きた場合に、食料や医薬品の提供、被災者の受け入れ、職員の派遣などが盛り込まれました。

高槻市で開かれた調印式では、3市町の首長が協定書に署名し、森下町長は、「協定を結べたことは大変ありがたいこと。今後、東日本大震災のような大きな災害が無いことを願っているが、万一災害が起こった場合には、ぜひ協力をお願いしたい」と、住民の安全と安心を願いました。



空を泳ぐ鯉たち (4/28)

三方五湖のひとつ三方湖に流れこむ鱒川^{はす}に、恒例の鯉のぼりが設置されました。

鯉のぼりは、自宅などで使われなくなったものを町内の方々から寄付いただいたもので、鳥浜青壮年会の会員と子ども会の児童らが、貝塚公園近くに約50匹の鯉のぼりを設置しました。

設置された鯉のぼりは、春の風を受けながら優雅に空を泳ぎ、公園に訪れた親子や近くの国道を通る観光客の目を楽しませていました。

鳥浜青壮年会の木下稔副会長は、「鯉のぼりを通じて親子が触れ合う場になって欲しい」と話していました。



▲設置された鯉のぼりを眺める親子

※ご自宅に、使わなくなった鯉のぼりがありましたら、町の観光交流課までお知らせください。



さあ、山に登ろう! (4/29)

三十三間山の山開きが、倉見登山口で行われました。

シーズン中の安全を祈願して神事が行われた後、祈念登山に訪れた約300人の登山愛好家たちは、元気良く山頂を目指しました。

神事を執り行った若狭三方五湖観光協会の浜本一夫会長は、「素晴らしい天候の下で神事を執り行うことができた。楽しい山登りをして欲しい」と、これからの観光シーズンに期待を込めていました。

下山後には、倉見振るまう会が作った筍ごはん^{たけのこ}と、ぼた餅が登山客に振る舞われ、登山の疲れを地元の味で癒していました。



▲山頂を目指す参加者たち

▶魚つかみで大物を手にした参加者



こどもの日は楽しみがいっぱい (5/5)

5月5日のこどもの日に、常神・神子・小川の3集落で「朝市・こどもまつり」が行われました。

まつりは、3集落の各観光組合が、大型連休の誘客と民宿利用者への感謝として毎年開いているものです。

まつりでは、若狭湾で獲れた魚介類の刺身やみそ汁の振る舞い、鮮魚などの販売が行われるなど、会場となった漁港には朝早くから大勢の観光客で賑わいました。

また、こどもの日にちなみ、宿泊者の子どもたちを対象とした魚つかみも行われ、プールに放たれたハマチやタコなどを、子どもたちは元気に追いかけていました。



街道を駆けるわんぱくたち (5/6)

鯖街道熊川宿わんぱく駅伝大会が行われました。

大会は、鯖街道の宿場町として栄えた熊川宿を広く知ってもらおうと、熊川地区地域づくり協議会が実行委員会を立ち上げ、企画したものです。

第1回となった今大会には、町内の小学校から6校9チームが出場し、合計8kmの距離を5人がたすきをつないで街道を駆けました。

レースは、第4走者までトップを走っていたチームを、最終ランナーで野木小学校チームが追い抜き、第1回大会の栄冠を手に入れました。

野木小学校チームの桑原汰知くん(3年生)は、「疲れたけど、優勝できて嬉しい。みんなが頑張ってくれた」と、仲間の力走を讃えていました。



▲一斉にスタートする児童たち



誘客に向けてエイエイオー (5/6)

嶺南6市町の旅館やホテルの女将でつくる「若狭路女将の会わかさ会」が、レインボーライン山頂公園で意見交換会を行いました。

意見交換会には、森下町長と山口美浜町長の2人も出席し、舞鶴若狭自動車道の全線開通に向けた誘客などの観光施策について意見が交わされました。

参加者からは、「水月湖の年縞をもっとPRし、年縞をからめた観光ルートの開設」、「嶺南6市町の首長との意見交換」などの意見が出されました。

誘客に向けた取り組みは、若狭町だけでなく、嶺南地域全体の課題です。みんなで知恵を出し合い、一丸となって取り組んでいきましょう。



▲若狭・美浜両町の町長と誘客に向けて決意を示す女将の会のメンバーら



子どもたちの健全育成のために (5/7)



▲決定書を持参した大島常務理事（写真左）と、決定書を手にする森下町長

B & G財団の大島康雄常務理事が三方庁舎を訪れ、B & G三方海洋センターの修繕費助成の決定書を森下町長に手渡しました。

B & G三方海洋センターは、平成元年の竣工から24年が経過し、プール施設の老朽化が目立ってきており、B & G財団に修繕費の助成をお願いしてきました。

今回、同施設の利用や運営、取り組みが適正であると評価され、約2,800万円を助成する決定をいただきました。

決定書を受け取った森下町長は、「健全な子どもたちを育成していく大切な施設。趣旨にのっとって改修工事を進め、より多くの子どもたちに活用してもらいたい」と話しました。



野球シーズン開幕 (5/8)

若狭町軟式野球大会の開会式が上中グラウンドで行われました。

大会は、ダイヤモンドリーグ（町長杯争奪）とサファイアリーグ（連盟会長杯争奪）の2リーグに分かれて実施されます。

今シーズンは、ダイヤモンドリーグに7チーム、サファイアリーグに6チームが出場し、10月まで熱戦を繰り広げます。

開会式の選手宣誓では、PRIDEの百田一郎選手が「野球を通じて、他のチームとの親睦を深め、ケガのないよう楽しくプレーします」と、シーズン中の健闘を誓いました。



▲選手宣誓をする百田選手



成果をこれから活かす (5/10)



▲研修成果を報告する研修生

3月に開催されたオーストラリア派遣研修「LET'S 豪 夢大陸」に参加した研修生の帰国報告会がパレア若狭で行われました。

この研修は、若狭町国際交流協会が20年以上にわたり、オーストラリアでのホームステイや学校訪問などを行っているもので、今年は3月22日～29日にかけて実施されました。

研修生たちからは、現地での様子や研修テーマの成果などが報告されました。

今回研修した、若狭高校1年の西田圭太郎さんは、「研修では、ライフスタイルの違いを感じた。帰国後は、積極的にコミュニケーションをとるようになった」と、満足そうに話していました。